

緑化委員会広報

東側斜面の低木を整備

寒空の中、新年初仕事

新年あけましておめでと
うございます。今年の三が
日は天候に恵まれ穏やかな
年明けでした。

元日、初日の出を見よう
と多摩市鶴牧東公園の丘に
登ると、地平線の雲間から
昇るすばらしい朝日が眺望
できた。真っ白な雪をかぶ
った富士山が青空を背に赤
く染まっっていく景色も最高
でした。

緑化委員会の新年初仕事
は1月11日、東側斜面と西
側の低木整備作業が始まっ
た。年間作業日程では1月
は正月休みの予定でした

が、昨年12月の作業が雨で
中止になったため、3連休
の中日に急ぎよ作業日程を
追加した。

入居して今年で21年目に
入り、敷地内の高木や低木
などが大きく成長してきて
いる。斜面への日差しなど
を確保するために今後、
これらの整備作業をどう進
めていくか検討課題になり
そうだ。

作業後に新年会を兼ねて
委員会を開催、造園業者へ
発注予定の今年の作業日程
を含め当面の懸案事項等を
協議した。(林 勘治)



高村太木画伯制作



五年は忍耐が肝要

気持ち新たに地道な努力

われらがホームタウンも
21年目を迎えた。気持ち
新に住民の皆さんと共に
よい環境作りに励みたい
と思います。

ある占いによれば、今年
の運気は「八方塞の年」と
か。振り返れば、昨年はウ
ォールストリートの崩壊に
始まる世界の経済秩序の破
綻、インド・ムンバイのテ
ロなどロクでもないことが
続発した。

出口の見えない世界の不
況、深刻さを増すパレスチ
ナ情勢、鳥インフルエンザ
の恐怖の中で迎えた五年で
すが、古来より五年は忍耐
が肝要と言われている。現
在の世界情勢や景気を考え
ても、今年は耐えることが



飛来したトモエガモ

絶滅危く種のトモエガモ

苦心の末にやっと撮影

絶滅危く種に指
定されているトモ
エガモの写真を多
摩市内で撮影し
た。場所は毎年飛
来してくる多摩
市・豊ヶ丘南公園
の池。東京都内で
トモエガモを観察
できる場所は限ら
れているが、寒い
さなかに苦心の
末、ようやく撮影
できた。

トモエガモはシ
ベリアで繁殖、日本には冬
鳥として渡来します。湖沼、
河川などで越冬するが、専
門家によると、近年、渡来
数が減少傾向にあるとい
う。
体長は40センチぐらいの
鳥で、コガモほどの大きさ。



オスの顔は黒色、緑色、淡
黄褐色の独特の模様をして
いる。メスはコガモ、シマ
アジのメスに羽色がよく似
ていて、くちばしに白斑が
出る。(山城 詢)

定例作業報告

(9月、1月)

9月1日(月) 10月4日
(土) 年間定例の生垣刈り
込み作業(風雅苑)

9月7日(日) 定例作業
実施。理事会主催の草取り
日のため、合同で作業。終
了後、防災委員会主催の防
災訓練に参加。

9月20日(土) 末木親子
バンドがライブ出演。有志
応援参加。

10月5日(日) 定例作業
実施。1号棟北側のユキヤ
ナギのせん定と東側、南側
のアジサイの花殻摘み取
り。

11月9日(日) 市民清掃
デーに合わせ理事会草取り
と合同作業実施。住民の要
望に沿って一部住宅周辺の
樹木伐採、せん定。

12月14日(日) 年末大掃
除。雨のため定例作業は中
止。午後5時から忘年会開
催。

12月28日(日) 年末餅つ
き会。31世帯が参加。

1月11日(日) 定例作
業。東側斜面の雑草整備。

終了後、新年会。



年末恒例の餅つき会

住民31世帯が参加

住民有志による恒例の年末餅つき会が昨年12月28日に行われた。幸い晴天に恵まれ、住民31世帯から子どもを含め50人の仲間が参加した。

例年通り午前8時すぎから作業を開始し、約30キロのもち米を約4時間かけてつき上げた。年々、常連参加者の作業習熟度が向上したせいがか、作業は手際よく急ピッチで進行。疲れ知らずの中高年者たちが交代で力強い杵の音を響かせた。

子どもたちも大勢参加し、つき立ての餅を丸めた



り、きな粉餅にして試食するなど楽しいひと時を過ごした。

終了後、名物料理長が朝からじっくり煮込んだ特製けんちん汁を食べ、楽しく歓談した。



空っ風を吹き飛ばすぞ

今年も地域活動に全力投球

田舎に住んでいた子供の頃、「坂東太郎」の利根川のほとりによく遊びに行くことがあった。

そこからは左に榛名、右に赤城がはだかり、さらにその右方向には武尊（ほたか）が顔を出し、遠くに谷川連峰の一角が真っ白に輝いているのが眺望できた。

この雄大な景色が大好きだった。しかし、この景色も一瞬に変貌する時がある。

川面に立っていた時、突然音を立てて突風が舞い降り、川の小石がすごい勢いで吹き飛ばされたことがあった。これが上州名物と呼ばれる空っ風だった。

冬の時期、大陸からの冷たい雪雲は谷川連峰にぶつかって多くの雪を越後に降らす。そして上州には身軽な空っ風となって吹き下りてくる。各家では戸のすき間から家の中へ砂じんが舞い込み、大変な目に遭ったという。

年齢を重ねるごとに空っ風の田舎生活が懐かしく思い出される。この厳しい自然現象が今、世界中に吹き荒れている。

新年のスタートに当たり、空っ風に負けないよう今年も地域の緑化及びアダプト活動に精一杯の努力を傾けたいと思う。

(香村 義隆)

編集後記

正月号をお届けします。緑化委員会の初仕事は日程を追加して正月早々の作業になりました。

高村太木画伯のすばらしいイラストの年賀状を広報に使わせてもらいました。

メタセコイア通り側の南斜面の梅の花がほころび始めました。日の出も早まり、もうすぐ春がやってきます。

(編集担当)

緑化委員会の旅好き一行が晩秋の上州信濃（1泊2日）の旅に出た。見ごろの紅葉最盛期は少し過ぎていたが、それでも道中、深まり行く秋の景色を十二分に楽しんだ。

上信越道・下仁田 IC近くの道の駅では、地元商工会が開催中の「秋の収穫祭」に出くわした。建物が円形の通路で連結され、中心部のイペント広場にケヤキの樹木を配したユニークな施設。下仁

晩秋の上州、信濃に行く

草津の足湯で混浴楽しむ

田ネギの特売やハツピ姿の女性たちがご当地音頭に合わせ、祭りを盛り上げていた。

中軽井沢で1泊した後、翌朝は鬼押し出しから白根、草津へ。白根山ろくろの駐車場に着くと、レストハウスは冬支度の真っ最中で、一部を除いてすでに閉鎖されていた。

ここまで来たら湯釜を見

物しよう、白根山の山頂を目指す。徒歩10分、湯釜に到着すると、湖面は太陽に照らされた断崖の岩肌を反射し、エメラルドグリーンに輝いていた。直径約三百メートル、水深30メートル、水温18度前後の湯釜は世界で最も強い酸性湖という。

草津温泉の湯畑脇の足湯では観光バスツアーで来た女性客たちと混浴しながら、しばし世間談議に花を咲かせた。(富田 信吉)

